

私にとっての南北統一

私は、韓国人の妻を持ち三人の子供の親でもある日本人です。私は、妻と結婚してからずっと心に思っていることがあります。それは、「南北統一は、日本の責任でやらなくてはならない」ということです。

おそらく、多くの日本の方は、何を馬鹿げたことを言っているんだと言うかもしれません。しかし、それでも私にそう思わせる出来事がありました。それを今からお伝えしたいとおもいます。

私の家庭では、日本語と韓国語が飛び交い、キムチと納豆を食べ、日韓のサッカーや野球の試合では、私は、韓国を応援し、妻は日本を応援するというふうに、韓日文化統一の家庭です。しかし、最近の世界の出来事を見ていると、戦争や飢餓、家庭の崩壊など辛いニュースばかり飛び込んで来ます。とりわけ、隣国、朝鮮半島の情勢を耳にすると、なぜ、隣の韓国と北朝鮮は、同一民族でありながら南北に分断されているのだろうかと心を痛めることが良くあります。一般的に見れば、島国であり単一民族国家の日本からすれば、とても不思議に思うかもしれませんが、しかし、その原因を少しでも知って見るならば、そんな悠長なことは、言っていられないと思うのです。考え方は、人様々ではありますが、私が考える時、少なくとも日本が朝鮮半島を植民地支配していなければ、このような分断は怒らなかつたであろうという一つの結論に達するからです。どうしてそういう結論に達するのかという一つの理由を述べたいとおもいます。

我が家は、日本と韓国の国際家庭です。ある日、結婚して初めて家内の実家と親戚に挨拶をする機会がありました。挨拶が進み、ある親戚と談笑していると、急にその人は、真顔になりこう話してくれました。実は、紹介したい親戚は、もっといるんだよと。よくよく話を聞いて見ると、その親戚の方の親と兄弟は、北朝鮮に住んでいることを話してくれました。韓国動乱の時に家族バラバラになり、その親戚の方は、やっとの思いで朝鮮半島の南端まで逃げてきたのだそうです。戦争が収まり、離ればなれになった親兄弟を探し回りましたが、消息はつかめませんでした。諦めかけた時、北朝鮮から逃れて来た人から、その人の家族は、北朝鮮で暮らしていることを知らされました。もうその時は、南北の行き来が出来なくなっていたときでした。今思えば、その親戚の人は、南北の離散家族でありました。混乱のなか、親兄弟と離ればなれになり、しかも二度と会うことのできない、その寂しさと苦痛。そのいうに言われぬ思いを日本人である私にぶつけて来たのです。私達の家族を引き裂いたのは、あんた達日本人だと。私は、ショックと何も言い返せないもどかしさに気が動転してしまうほどでした。私は、韓国人の妻を持つということは、その人の背景すべてを背負い責任を持つことだと思いました。涙ながらに訴えるその人を前に、私は、ただただ手を握りながら共に涙することしかできませんでした。私は、その時に誓いました。何とかして、その親戚の方の苦痛を解放したいとおもいました。しかし、私個人では、何もすることができません。私にできることはなんだろうと考えました。そして、出た答えが、身近にいる民団と朝総連の人を愛し一つに繋いでいこうと思いました。それでも、簡単なことではないことわかっていますが、何とかやりとげたいとおもいました。

私にとっての南北統一は、朝鮮民族を一つにするというのがありますが、それにもまして離ればなれになった家族を一つに繋ぐという思いが強くあります。

今では、南北統一は、日本の責任というよりも私の責任という思いで行っております。かつて聞いた親戚の方の涙の証、その方の心情をどれだけ解くことが出来たかはわかりませんが、私が生きている間は、南北統一に少しでも貢献できるように生活していきたいとおもいます。